NIE実践報告

1．タイトル：☆高校生のための新聞

2．学校名

大阪府大阪市立鶴見商業高等学校

3．実践者名（代表者名）

黒田誠

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

HR活動、課題研究　206人(課題研究は22人)

6．単元（本時の学習課題）名

「高校生のための新聞」を考える

7．目標(狙い)

前年度に行った校内アンケートで、約9割の生徒が日常的に新聞を読んでいないことがわかった。新聞を読むことは大切だと伝えるため、複数年計画で「高校生のための新聞」を考えていくことにした。本年が1年目。

8．評価の視点

①ホームルーム活動では、3年生が全員、将来も新聞に興味を持ってもらえるように心がけ指導を進めた。
②課題研究では、作文・小論文試験対策も兼ねて取り組んだ。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①ホームルーム活動では、毎日、最新ニュースを取り上げて提供した。(1・2学期、毎日実施)
②課題研究では、週1回、高校生向けの記事を選んで課題とし、内容・感想などを提出させた(12時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1.ホームルーム活動
1・2学期の毎朝、当日朝刊のニュースで話題性の高いものを掲示して記録させ、生徒に興味を持たせるように工夫した。また、その内容について実力テストに出題して、定着しているかの確認を行った。
2.課題研究
①こちらから高校生向けの記事を複数与え、その内容や感想をまとめさせた。(3時間)
②本校図書館にある新聞の中から、自分たちで高校生向けの記事を選び、メンバー全員で交換しながら、その内容や意味を議論させた。(3時間)
③過去に卒業生が受けた就職・入学試験の作文・小論文で取り上げられた新聞記事をもとに、その記事が高校生にとってどのような意味を持つのかを考えた上で、意見を書かせた。(3時間)
④日本経済新聞の記者から話を聞き、商業高校の3年生として、将来社会で必要な経済記事を取り上げ、その内容や意味、感想をまとめさせた。(3時間)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①実力テストにも出題したため、クラス内で新聞記事のことが話題になる機会が増えたようだった。
②この時間で学んだことをいかして自分の進路を決定した生徒も多くいたため、非常に好評だった。

12．成果と課題

最初はこちらから高校生向きの記事を提供していったことで、毎日、新聞を読む習慣をつけた生徒が多くいたことが成果である。また、新聞を読んだことで、就職・入学試験の作文・小論文の対策になった。
今後は、「高校生のための新聞」の企画を毎年定着させて、さらに実りのあるものにしていくことが課題だと思う。